

市立

2007年度

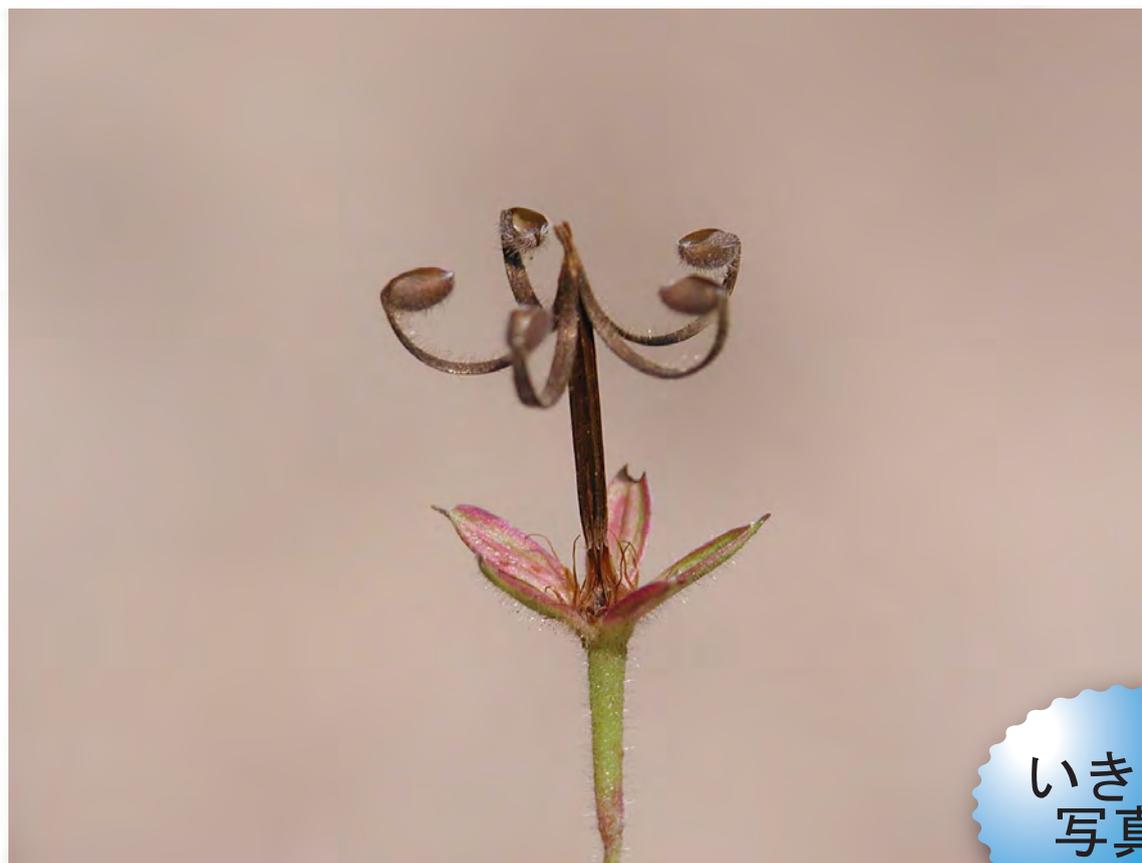
10-11月号

(通巻 112号)

いちかわ

自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



ゲンノショウコの実
神輿の屋根飾りに似ています。5本の腕の先に
タネが入っていて、開く時に飛ばします。

いきもの
写真館

撮影：土居幸雄さん

- | | | | |
|-----|--|-----|---|
| P 1 | いきもの写真館
●ゲンノショウコの実 | P 5 | 自然博物館の活動紹介
●名前をしらべる会 |
| P 2 | 観察ガイド 10月から11月のおすすめ
●渡り鳥の季節 ほか | P 6 | 自然博物館 スポットライト
●安全対策
わたしの標本
●川で収集した岩石標本 |
| P 3 | 街かど自然探訪
●下新宿・水閘門
くすのきのあるバス通りから
●台風来襲、あれこれ | P 7 | わたしの観察ノート
●No.94 7月～8月ごろの記録 |
| P 4 | 近隣博物館めぐり
●葛飾区郷土と天文の博物館 | P 8 | 行事案内 |



観察ガイド

10月から11月のおすすめ



渡り鳥の季節 —ヒタキ類やシギ・チドリ類—

紅葉のたよりが届く10月、平地の市川市では紅葉はまだ先ですが、代わりにいろいろな渡り鳥が秋の気配を届けてくれます。北部の大町公園や里見公園、小塚山公園などでは、キビタキ（写真上：剥製）をはじめとするヒタキ類やムシクイ類が、江戸川放水路など湾岸地域ではメダイチドリやキョウジョシギなどのシギ・チドリ類が飛来し、羽を休めた後、それぞれ次の目的地へと飛び去っていきます。また、ハマシギ（写真下）など市内で冬を過ごす渡り鳥も、この頃より姿を見せはじめます。



ハチの巣に注意 —スズメバチ類—

秋は、スズメバチの巣（写真）が大きくなり、また働きバチの数も増えるので、人間との遭遇の機会が増え事故も多くなります。テレビでは「殺人バチ」などと危険性ばかりが強調されて報道されますが、ハチの立場に立てばあくまでも巣を守ろうという「専守防衛」であり、わざわざ人間を狙って刺しに来るわけではありません。巣に気づき、巣に近づかないというだけで、事故の危険はずっと小さくなります。駆除が必要な事例が多いのも確かですが、過剰な反応は避けたいものです。



風に舞う銀色の綿毛 —ガガイモのたね—

ガガイモという植物をご存知でしょうか？ 夏から目につくようになるツル草で、花は8月ごろ咲き（エンジ色の星型の花）、9月から10月にかけて実が目立つようになります。実はちょうどオクラのような形をしていて熟すと縦に裂け、中には銀色の綿毛をつけた「たね」が行儀よく並んでいます（写真）。茶色いタネ本体にくらべて銀色の毛が長いせいか、風で舞い上がるといつまでも浮かんでいて落ちてきません。風に吹かれて舞うガガイモのたねは、秋の風物詩のようです。



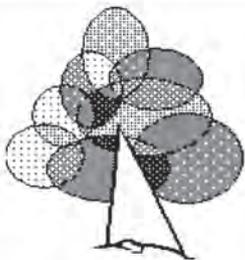
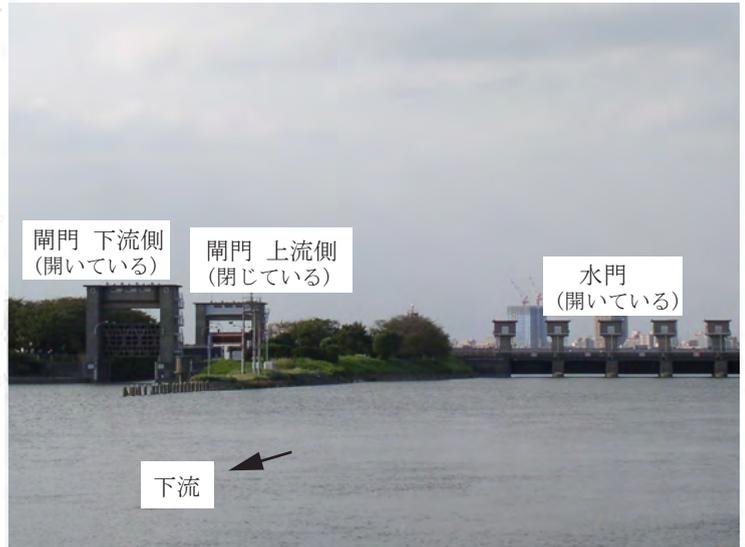


街かど自然探訪

おじゃまします!

しもしんしゆく 下新宿・水閘門

稲荷神社のわきをぬけて土手に上がり、上流をのぞくと江戸川の水閘門を真正面に見ることができます。水閘門は、江戸川の水を上水として使用するために、海水が上流に遡上しないようにできました。水門と閘門に分かれていて、水門は、一日のうち、引き潮にあわせて開かれ、江戸川の水が海に流れていきます。閘門は、船が江戸川の上流と下流を行き来する時に使われます。門は上流側と下流側にあり、水位を調節して、海水が混ざらないように船を通していきます。



くすのきのあるバス通りから No.57

台風来襲、あれこれ

今年の夏は、大変暑かった。セミは多かったように思います。木がある庭や、ちょっとした林で、「ワーンワーンワーン」と大合唱でした。天候がよかったせいか、梨がおいしいですね。みずみずしく、甘く大きいです。

9月6日、台風が小田原に上陸しました。JR市川駅近くの街路樹は枯れた枝が折れて道路に落ちていました。ビルの間を通るため、より一層風が強くて、傘が壊れそうで、皆差さずにぬれながら家路を急いでいました。次の日、富貴島小学校前の松並木を見ますと、松の木は雨に洗われ、風のせいで古い松葉が落ちて、

きれいな緑に見えました。道路は踏まれた松葉の芳香が漂っていました。「行徳可動堰が開いているかもしれない」というので、どんな様子か見てみたいと思い、9日に行きました。江戸川(放水路)と旧江戸川両方ともミルクティ色でした。堰の所は小さな渦ができていました。2箇所堰が上がっていました。橋の下流側は海水なので、堰にはカキ殻やゴカイの管が沢山ついていました。テレビのニュースで「船橋漁港や谷津干潟ではアシや流木、ゴミが流れ着いて大変です」と伝えていました。

(M. M.)



●秋の夜長に星空観察を！

秋の夕方、日暮れが早くなりました。この時期は、星空を観察するにはいい季節です。太陽が西の空に沈み、夕焼けが空を真っ赤に染めるような日の宵には天体観察をしてみませんか。今回は、天体や宇宙について学べる博物館を訪ねてみました。

●京成線のお花茶屋駅から徒歩8分

京成線のお花茶屋駅で下車します。青砥寄りの線路と交差する真っ直ぐな大通りを亀有方面に歩くとすぐに大きなプラネタリウムの丸い屋根が見えてきます。これが葛飾区郷土と天文の博物館です。ちなみにこの大通りは曳舟川(葛西用水)の跡で、大通りの一部はこれを親水公園化した曳舟川公園になっています。曳舟川は、江戸時代初期に上水路として建設され、飲料水として利用されていました。江戸時代中期にはその役目を終えましたが、後に、旅人を小舟に乗せて綱をつけて岸から引く水路として利用されました。“曳舟”の名はここから出たと言われています。

●2つのテーマ、「郷土」と「天文」

葛飾区郷土と天文の博物館は、葛飾地方の自然と人間の歴史、及び天文や宇宙を身近なものとして体験できる場として平成3年に開館しました。常設展は2つのテーマ「郷土」と「天文」で構成されています。ここでは、天文展示を紹介しましょう。

●迫力ある天文展示

エントランス正面の階段を上がると大きな振り子が目に入ります。フーコーの振り子といいます。地球の自転によって振り

子の錘の通過面が変化するように観察することができます。展示室入口には、ガリレオ式屈折望遠鏡など4種類の天体望遠鏡が展示されていて実際に覗くことができます。展示室にはティコ・ブラーエの大アーミラーという星の位置を測定する巨大な分度器の復元模型が展示されています。太陽望遠鏡の画像も見られます。他にも天文学の歴史や太陽系のしくみなどが、映像や模型を使って分りやすく展示されています。展示室入口にガイドマップとクイズが置いてあるので、これを見ながら見学するのもよいでしょう。

●展示室と隣接してプラネタリウム

市川市の少年自然の家にもプラネタリウムがあり、土日には一般公開を行っています。葛飾区郷土と天文の博物館にもプラネタリウムがあります。座席横のアナライザーでクイズに参加することができるなど市川市とはまた違った演出をしています。平日1回、土曜日6回、日祝日4回の上映で、プログラムは5種類あります。

(※時間やプログラムは電話で問い合わせてください)



△大きなドームが目印の葛飾区郷土と天文の博物館
(所在地) 〒125-0063 葛飾区白鳥 3-25-1
(電話) 03-3838-1101

第49回 名前をしらべる会

平成19年8月26日(日) 午前10時～午後4時

市民会館にて (相談件数9件 大人13人・子ども8人)

●歴史ある行事

昭和30年代、夏休みの宿題の定番は、植物や昆虫の標本作りでした。作製した標本の名前をしらべようと、子どもたちがたくさん図書館を訪れたそうですが、図書館員の方々では専門的な質問をされてもわからず、非常に苦勞をされたそうです。それを知った市内小中学校に勤務されていた有志の先生方で、標本の名前しらべの相談会を始めたのがこの行事の始まりです。その後、自然博物館の開館にともない、図書館で行っていた行事の運営を、博物館で行うようになり、今回で通算49回目になりました。

●行事の内容

標本の種類は、植物、貝、昆虫、岩石で、マンツーマンで行ない、持参した標本を1点ずつ検討していきます。自分で調べてもわからなかった標本に、目の前で講師の先生がどんどん名前を付けていくのに、驚く参加者も少なくありません。直接話をしながら、標本の名前のしらべ方、図鑑の使い方をはじめ、標本の作り方や分類、保存の方法、テーマを持ったまとめ方のコツなども指導していきます。参加者は小中学生がほとんどですが、庭に突然生えた植物の名前を調べにいらした大人の方もいました。

●最近の傾向

ここ数年、この行事の相談件数は減少しています。これは小中学校の夏休みの課題の形態が変わり、標本が課題にされなくなってきているためと考えられます。近年、持参される標本は2つのタイプに分かれます。ひとつは夏休みだけでなく日頃から時間をかけて採集、作製をしていることが伺える標本です。見た目に美しく数も多くよく整理されています。もうひとつは作製方法を教わったことがないため、よくわからないままつくられた標本です。植物の葉や花の一部だけを貼り付けたものなど、標本として必要な要件が満たされていないものもありました。会のなかでも指導していますが、博物館では標本の作り方をまとめた小冊子を常時無料配布しています。ご興味のある方はお問い合わせください。



△事前に整理した、たくさんの貝の標本を持ってきてくれました。

安全対策

あまり目立たないことですが、来館者が安心して展示を見学できるように、平成17年度から館内を修繕しています。老朽化にともなって直しておいたほうが安全なもの、職員が日ごろ来館者の年齢層や行動などを観察して改善したほうがよいと思われるものを、順次修繕しています。今までに施工したものに、ゾーンサインの素材の変更や、展示ガラスケースへの飛散防止フィルムの貼り付けなどがあります。



△ガラスが割れても、飛び散らなくする特殊なフィルムを展示ケース蓋の裏側に貼り付けました。ケース内の標本を全て出して、慎重に作業を行いました。

わたしの標本

川で収集した岩石標本

今年の「名前をしらべる会」に、岩石の標本を持って来られたお父さんと男の子の親子連れがいらっしゃいました。お話をうかがうと、福島県の黒谷川と長野県の中房川という川で集めた岩石だそうです。種類は泥岩や凝灰岩などで、講師の先生の解説を熱心に聞いていらっしゃいました。先生によると川で採集した点が重要で、川原では、流れに運ばれてきたいろいろな種類の岩石が集められるそうです。



△採集した場所と石の名前を書いた紙片とともに一点ずつビニル袋に入れて整理

わたしの
観察
No.94
ノート

◆大町公園より

- ・魚の調査で水路に網を入れました。スナヤツメの幼生が2匹確認できました(7/31)。ホトケドジョウもいました。

金子謙一(自然博物館)

- ・ハンノキの葉の裏側に止まっているゴマダラチョウを見つけました(8/4)。翅が痛んでいなかったことから、羽化したばかりの個体のような様子でした。

清野元之(自然博物館)

- ・胸の模様がまだはっきりしないシジュウカラの若鳥が一生懸命餌を食べているのをあちらこちらで見ました(8/10)。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆八幡付近より

- ・アブラゼミの声と姿を確認しました(7/2)。

M.M.さん

◆国府台より

- ・スポーツセンターでアブラゼミが鳴いていました(7/8)。この日は里見公園周辺でニイニイゼミが鳴いているのも確認できました。

K.H.さん

◆大洲ビオトープより

- ・造成当初とは変わって、ヒメガマが群生するようになりました。絶滅危惧種のタコノアシが多く見られて、花が咲いていました(8/19)。

金子謙一

◆真間周辺より

- ・ゴイサギの成鳥1羽が、手児奈霊堂の池、花が咲き始めたサルスベリの本の枝にとまって、じっと水面をみつめていました(7/28)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・シロダモの本の枝、地上からわずか1.5mのところ、フクロウ1羽がとまっていた(7/21)。さすがに園路沿いを私が移動すると、音も立てずに飛び去りました。

◆坂川旧河口周辺より

- ・干潮で水が引いた江戸川にダイサギ3羽、コサギ1羽が見られました(7/7)。
- ・イソシギ1羽が坂川旧河口先江戸川に流れ着いた流木にとまって尾を振りまわりました(8/4)。

◆市内某所

- ・アオバズクが巣立ちました(7/16)。巣穴近くの枝に3羽の幼鳥がバラバラになってとまっていた。成鳥も2羽が幼鳥の近くにいました。ハシブトガラスの群れが遠からぬ場所で元気に騒いでいますので、無事に何羽が育ってくれるのか気がかりです。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

日照時間が記録的に短い7月と、記録的な猛暑と雨が降らない8月でした。



行事案内



自然観察会 お申し込みが必要な行事です。

市内の自然豊かな場所に行って、親子で楽しく自然観察をします。 定員：各回先着 20 名

テーマ	日時	場所	受付開始日
-----	----	----	-------

いきものの冬越し	平成 20 年 1 月 13 日(日) 午前	柏井雑木林	12 月 15 日～
----------	------------------------	-------	------------

申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	場所
-----	----	----

秋の水田	10月21日(日) 午前10時～11時30分	市川北高校周辺～市営霊園
暮らしの中の木々(秋)	11月18日(日) 午前10時～11時30分	中山～鬼越
北西部の緑地めぐり	12月16日(日) 午前10時～11時30分	国府台周辺

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 10月28日㊦、11月25日㊦ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 11月4日㊦、12月2日㊦ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

会場変更のお知らせ

平成 19 年度行事案内等でお知らせしております

「自然講座」の会場が **1 月 26 日**のみ

変更になります。

・会場 **市川市 市民会館**

(葛飾八幡宮参道脇)

その他の日の会場は例年どおり

八幡市民談話室です。

詳しくは次号でお知らせします。

市立市川自然博物館だより
第 19 巻 第 4 号 (通巻第 112 号)

発行日/平成 19 年 10 月 1 日

編集・発行/市立市川自然博物館

〒272-0801 千葉県市川市大町 284 番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku>